



会議ブリッジの設定

Cisco Unified Communications Manager 用の会議ブリッジは、ソフトウェアまたはハードウェアからなるアプリケーションです。これを使用すると、Ad Hoc 音声会議とミーティング音声会議の両方が実現できます。どの方式の会議ブリッジも、複数の参加者による複数の会議を同時にサポートしています。

ハードウェア会議とソフトウェア会議の両方の会議ブリッジを同時にアクティブにすることができ、ことに注意してください。ソフトウェアとハードウェアのコンファレンス デバイスでは、サポートするストリーム数とコーデックのタイプが異なります。

会議ブリッジの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「会議ブリッジ」を参照してください。



(注)

会議ブリッジ用のハードウェア モデルには、固有のメディア アクセス制御 (MAC) アドレスとデバイス プールの情報が組み込まれています。



(注)

選択する会議ブリッジのタイプによって、Cisco Unified Communications Manager の管理ページに表示される会議ブリッジのフィールドが異なることに注意してください。

会議ブリッジを設定するには、次のトピックを参照してください。

- [会議ブリッジの検索 \(P.64-2\)](#)
- [ソフトウェア会議ブリッジの設定について \(P.64-3\)](#)
- [ソフトウェア会議ブリッジの設定値 \(P.64-4\)](#)
- [ハードウェア コンファレンス デバイスの追加 \(P.64-5\)](#)
- [ハードウェア会議ブリッジの設定値 \(P.64-6\)](#)
- [Cisco IOS Conference Bridge デバイスの追加 \(P.64-7\)](#)
- [Cisco IOS Conference Bridge の設定値 \(P.64-8\)](#)
- [Cisco Video Conference Bridge デバイスの追加 \(P.64-9\)](#)
- [Cisco Video Conference Bridge の設定値 \(P.64-10\)](#)
- [Cisco Conference Bridge \(WS-SVC-CMM\) の追加 \(P.64-11\)](#)
- [Cisco Conference Bridge \(WS-SVC-CMM\) の設定値 \(P.64-12\)](#)
- [コンファレンス デバイスの更新 \(P.64-13\)](#)
- [コンファレンス デバイスの削除 \(P.64-14\)](#)

- ミートミー番号 / パターンの設定 (P.58-3)
- ミートミー番号 / パターンの設定値 (P.58-4)
- ミートミー番号 / パターンの削除 (P.58-5)

会議ブリッジの検索

ネットワーク内にはいくつかの会議ブリッジが存在することがあるので、Cisco Unified Communications Manager では、固有の条件を指定して、特定の会議ブリッジを見つけることができます。会議ブリッジを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、会議ブリッジの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、会議ブリッジの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [メディアリソース] > [会議ブリッジ] の順に選択します。

[会議ブリッジの検索と一覧表示 (Find and List Conference Bridges)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、検索条件のボックスが空であることを確認し、[ステップ 3](#) に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注)

検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア] ボタンをクリックして、追加したすべての条件を削除してください。

ステップ 3 [検索] をクリックします。

すべてのレコード、または一致したレコードが表示されます。[ページあたりの行数] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択] をクリックして [選択項目の削除] をクリックすると、データベース内のすべての会議ブリッジレコードを削除できます。

ステップ 4 表示されたレコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

P.64-15 の「関連項目」を参照してください。

ソフトウェア会議ブリッジの設定について

管理者は、Conference Bridge Configuration を使用して、ソフトウェア会議ブリッジを Cisco Unified Communications Manager に追加することはできません。ソフトウェア会議ブリッジは、Cisco Unified Communications Manager サーバが追加されるときに、自動的に追加されます（詳細については、P.2-4 の「サーバの設定」を参照してください）。Cisco Unified Communications Manager サーバの追加後、管理者が検索を実行すると、[会議ブリッジの検索と一覧表示 (Find and List Conference Bridges)] ウィンドウにソフトウェア会議ブリッジが表示されます（デフォルトでは、最初のソフトウェア会議ブリッジは Cisco Unified Communications Manager のインストール時に設定されます）。ソフトウェア会議ブリッジを更新することはできますが、削除はできません。

追加情報

P.64-15 の「関連項目」を参照してください。

ソフトウェア会議ブリッジの設定値

表 64-1 では、ソフトウェア会議ブリッジの設定値について説明します。

表 64-1 ソフトウェア会議ブリッジの設定値

フィールド	説明
[会議ブリッジタイプ (Conference Bridge Type)]	このフィールドには、Cisco Conference Bridge ソフトウェアが自動的に表示されます。
[ホストサーバ (Host Server)]	このフィールドには、このソフトウェア会議ブリッジの Cisco Unified Communications Manager サーバが自動的に表示されます。
[会議ブリッジ名 (Conference Bridge Name)]	このフィールドには、ソフトウェア会議ブリッジの名前が自動的に表示されます。名前の形式では、CFB_ の後ろに、ソフトウェア会議ブリッジの値を表す番号が続きます。たとえば、CFB_3 は Cisco Unified Communications Manager システムの 3 番目の会議ブリッジを表します。
[説明 (Description)]	このフィールドには説明が自動的に表示されます。管理者はこのフィールドを更新できません。
[デバイスプール (Device Pool)]	使用している Cisco Unified Communications Manager グループの中で一番高い優先度をもつデバイスプールを選択するか、または [Default] を選択します。
[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]	会議ブリッジに割り当てる共通デバイス設定を選択します。共通デバイス設定には、MOH オーディオ ソースなど、電話機ユーザ用の機能およびサービスをサポートする属性が含まれています。 [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ウィンドウで設定するデバイス設定は、ドロップダウンリストに表示されます。詳細については、P.93-1 の「共通デバイス設定」を参照してください。
[ロケーション (Location)]	この会議ブリッジに適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションに [Hub_None] を設定すると、そのロケーションの機能では、この会議ブリッジが消費する帯域幅を把握しません。

追加情報

P.64-15 の「関連項目」を参照してください。

ハードウェア コンファレンス デバイスの追加

ハードウェア コンファレンス デバイスを追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

デバイス プールを設定します。P.9-5 の「[デバイス プールの設定値](#)」を参照してください。

手順

ステップ 1 [メディアリソース] > [会議ブリッジ] の順に選択します。

ステップ 2 [新規追加] をクリックします。

[会議ブリッジの設定 (Conference Bridge Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します (表 64-2 を参照)。

ステップ 4 [保存] をクリックします。

ステップ 5 [リセット] をクリックして、会議ブリッジデバイスをリセットし、変更内容を適用します。

[デバイスリセット (Device Reset)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 6 [リセット] をクリックして、ウィンドウを閉じます。

追加情報

P.64-15 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ハードウェア会議ブリッジの設定値

表 64-2 では、ハードウェア会議ブリッジの設定値について説明します。

表 64-2 ハードウェア会議ブリッジの設定値

フィールド	説明
[会議ブリッジタイプ (Conference Bridge Type)]	[Cisco Conference Bridge Hardware] を選択します。 詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「Cisco Unified Communications Manager の管理機能における会議ブリッジのタイプ」を参照してください。
[MAC アドレス]	固有のデバイス MAC アドレスを入力します。MAC アドレスは、12桁の 16 進数 (0 ~ 9, A ~ F) から構成されます。 例 1231123245AB
[説明 (Description)]	このフィールドは、指定された MAC アドレスから自動的に生成されます。必要に応じて、このフィールドは更新できます。
[デバイスプール (Device Pool)]	使用している Cisco Unified Communications Manager グループの中で一番高い優先度をもつデバイス プールを選択するか、または [Default] を選択します。
[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]	会議ブリッジに割り当てる共通デバイス設定を選択します。共通デバイス設定には、MOH オーディオ ソースなど、電話機ユーザ用の機能およびサービスをサポートする属性が含まれています。 [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ウィンドウで設定するデバイス設定は、ドロップダウン リストに表示されます。詳細については、P.93-1 の「共通デバイス設定」を参照してください。
[ロケーション (Location)]	この会議ブリッジに適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションに [Hub_None] を設定すると、そのロケーションの機能では、この会議ブリッジが消費する帯域幅を把握しません。
[特別なロード情報 (Special Load Information)]	特別なロード情報を入力するか、ブランクのままにしてデフォルトを使用します。

追加情報

P.64-15 の「関連項目」を参照してください。

Cisco IOS Conference Bridge デバイスの追加

Cisco IOS コンファレンス デバイスを追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

デバイス プールを設定します。P.9-3 の「[デバイス プールの設定](#)」を参照してください。

手順

ステップ 1 [メディアリソース] > [会議ブリッジ] の順に選択します。

ステップ 2 [新規追加] をクリックします。

[会議ブリッジの設定 (Conference Bridge Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します (表 64-3 を参照)。

ステップ 4 [保存] をクリックします。

ウィンドウがリフレッシュされ、追加したコンファレンス デバイスが表示されます。

ステップ 5 [リセット] をクリックして、会議ブリッジ デバイスをリセットし、変更内容を適用します。

[デバイスリセット (Device Reset)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 6 [リセット] をクリックします。


追加情報

P.64-15 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco IOS Conference Bridge の設定値

表 64-3 では、Cisco IOS Conference Bridge の設定値について説明します。

表 64-3 Cisco IOS Conference Bridge の設定値

フィールド	説明
[会議ブリッジタイプ (Conference Bridge Type)]	<p>[Cisco IOS Conference Bridge] または [Cisco IOS Enhanced Conference Bridge] を選択します。</p> <p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「Cisco Unified Communications Manager の管理機能における会議ブリッジのタイプ」を参照してください。</p>
[会議ブリッジ名 (Conference Bridge Name)]	ゲートウェイのコマンドライン インターフェイス (CLI) で既存の同じ名前を入力します。
[説明 (Description)]	このフィールドは、指定した会議ブリッジ名から自動的に生成されます。必要に応じて、このフィールドは更新できます。
[デバイスプール (Device Pool)]	デバイス プールを選択するか、[Default] を選択します。
[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]	<p>会議ブリッジに割り当てる共通デバイス設定を選択します。共通デバイス設定には、MOH オーディオ ソースなど、電話機ユーザ用の機能およびサービスをサポートする属性が含まれています。</p> <p>[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ウィンドウで設定するデバイス設定は、ドロップダウンリストに表示されます。詳細については、P.93-1 の「共通デバイス設定」を参照してください。</p>
[ロケーション (Location)]	この会議ブリッジに適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションに [Hub_None] を設定すると、そのロケーションの機能では、この会議ブリッジが消費する帯域幅を把握しません。
[デバイスセキュリティモード (Device Security Mode)]	<p>このフィールドは、Cisco IOS Enhanced Conference Bridge にのみ表示されます。</p> <p>[Non Secure Conference Bridge] を選択すると、ポート 2000 で、ノンセキュア会議が Cisco Unified Communications Manager への TCP 接続を確立します。</p> <p></p> <p>ヒント この設定が、会議ブリッジのセキュリティ設定と一致していることを確認してください。一致していない場合、コールが失敗します。</p> <hr/> <p>[Encrypted Conference Bridge] 設定は、セキュア会議機能をサポートします。セキュアな会議ブリッジの設定手順については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>

追加情報

P.64-15 の「関連項目」を参照してください。

Cisco Video Conference Bridge デバイスの追加

Cisco Video Conference Bridge デバイスを追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

デバイス プールを設定します。P.9-5 の「[デバイス プールの設定値](#)」を参照してください。

手順

ステップ 1 [メディアリソース] > [会議ブリッジ] の順に選択します。

ステップ 2 [新規追加] をクリックします。

[会議ブリッジの設定 (Conference Bridge Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します (表 64-4 を参照)。

ステップ 4 [保存] をクリックします。

ウィンドウがリフレッシュされ、追加したコンファレンス デバイスが表示されます。

ステップ 5 [リセット] をクリックして、会議ブリッジ デバイスをリセットし、変更内容を適用します。

[デバイスリセット (Device Reset)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 6 [リセット] をクリックします。

追加情報

P.64-15 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco Video Conference Bridge の設定値

表 64-4 では、Cisco Video Conference Bridge の設定値について説明します。

表 64-4 Cisco Video Conference Bridge の設定値

フィールド	説明
[会議ブリッジタイプ (Conference Bridge Type)]	[Cisco Video Conference Bridge (IPVC-35xx)] を選択します。 詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「Cisco Unified Communications Manager の管理機能における会議ブリッジのタイプ」を参照してください。
[MAC アドレス]	固有のデバイス MAC アドレスを入力します。MAC アドレスは、12桁の 16 進数 (0 ~ 9, A ~ F) から構成されます。 例 1231123245AB
[説明 (Description)]	このフィールドは、指定した会議ブリッジ名から自動的に生成されます。必要に応じて、このフィールドは更新できます。
[デバイスプール (Device Pool)]	デバイス プールを選択するか、[Default] を選択します。
[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]	会議ブリッジに割り当てる共通デバイス設定を選択します。共通デバイス設定には、MOH オーディオ ソースなど、電話機ユーザ用の機能およびサービスをサポートする属性が含まれています。 [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ウィンドウで設定するデバイス設定は、ドロップダウンリストに表示されます。詳細については、P.93-1 の「共通デバイス設定」を参照してください。
[ロケーション (Location)]	この会議ブリッジに適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションに [Hub_None] を設定すると、そのロケーションの機能では、この会議ブリッジが消費する帯域幅を把握しません。
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
(デバイス メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] の下にあるモデル固有のフィールドは、デバイス メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。 フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの下にある「？」情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。 詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のデバイスの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。

追加情報

P.64-15 の「関連項目」を参照してください。

Cisco Conference Bridge (WS-SVC-CMM) の追加

Cisco Conference Bridge (WS-SVC-CMM) を追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

デバイス プールを設定します。P.9-5 の「[デバイス プールの設定値](#)」を参照してください。

手順

ステップ 1 [メディアリソース] > [会議ブリッジ] の順に選択します。

ステップ 2 [新規追加] をクリックします。

[会議ブリッジの設定 (Conference Bridge Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します (表 64-5 を参照)。

ステップ 4 [保存] をクリックします。

ウィンドウがリフレッシュされ、追加したコンファレンス デバイスが表示されます。

ステップ 5 [リセット] をクリックして、会議ブリッジ デバイスをリセットし、変更内容を適用します。

この操作を実行すると会議ブリッジ デバイスがリセットされることを確認するメッセージが表示されます。

ステップ 6 [リセット] をクリックします。

追加情報

P.64-15 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco Conference Bridge (WS-SVC-CMM) の設定値

表 64-5 では、Cisco Conference Bridge (WS-SVC-CMM) の設定値について説明します。

表 64-5 Cisco Conference Bridge (WS-SVC-CMM) の設定値

フィールド	説明
[会議ブリッジタイプ (Conference Bridge Type)]	[Cisco Conference Bridge (WS-SVC-CMM)] を選択します。 詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「Cisco Unified Communications Manager の管理機能における会議ブリッジのタイプ」を参照してください。
[説明 (Description)]	説明 (最大 50 文字) を入力するか、ブランクのままにします。ブランクのままにすると、指定した MAC アドレスから自動的に生成されます。
[MAC アドレス]	固有のデバイス MAC アドレスを入力します。MAC アドレスは、12 桁の 16 進数 (0 ~ 9, A ~ F) から構成されます。 例 1231123245AB
[サブユニット]	ドロップダウン リストボックスから、Communication Media Module カード上の任意のスロット用のドータ カードの値を選択します。
[デバイスプール (Device Pool)]	デバイス プールを選択するか、[Default] を選択します。
[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]	会議ブリッジに割り当てる共通デバイス設定を選択します。共通デバイス設定には、MOH オーディオ ソースなど、電話機ユーザ用の機能およびサービスをサポートする属性が含まれています。 [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ウィンドウで設定するデバイス設定は、ドロップダウン リストに表示されます。詳細については、P.93-1 の「共通デバイス設定」を参照してください。
[ロケーション (Location)]	この会議ブリッジに適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションに [Hub_None] を設定すると、そのロケーションの機能では、この会議ブリッジが消費する帯域幅を把握しません。
[最大容量]	ドータ カード上の任意のサービスのストリームの最大数を選択します。ストリーム数の値には、32、64、96、および 128 を使用できます。各ドータ カードに、選択した値と同じ数のポートがあることを確認してください。
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
(デバイス メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの下にある「？」情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。 詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のデバイスの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。

追加情報

P.64-15 の「関連項目」を参照してください。

コンファレンス デバイスの更新

コンファレンス デバイスを更新する手順は、次のとおりです。

始める前に

次の条件を満たしていることを確認してから手順に進んでください。

- サーバが設定済みであること。P.2-6 の「サーバの設定値」を参照してください。
- デバイス プールが設定済みであること。P.9-5 の「デバイス プールの設定値」を参照してください。
- コンファレンス デバイスが設定済みであること。コンファレンス デバイスの追加については、該当する項を参照してください。



(注) ソフトウェア会議ブリッジは、Cisco Unified Communications Manager サーバを作成するときに、自動的に作成されます。P.64-3 の「ソフトウェア会議ブリッジの設定について」を参照してください。

- ソフトウェア会議ブリッジに対して、Cisco IP Voice Media Streaming Application サービスをアクティブにする。『Cisco Unified Communications Manager Serviceability アドミニストレーションガイド』を参照してください。

手順

- ステップ 1** P.64-2 の「会議ブリッジの検索」の手順を使用して、会議ブリッジを見つけます。
- ステップ 2** 更新する会議ブリッジをクリックします。
- ステップ 3** 該当する設定値を更新します（表 64-1、表 64-2、表 64-3、表 64-4、または表 64-5 を参照）。
- ステップ 4** 変更の終了後、[保存] をクリックします。

追加情報

P.64-15 の「関連項目」を参照してください。

コンファレンス デバイスの削除

コンファレンス デバイスを削除する手順は、次のとおりです。Cisco Unified Communications Manager Conference Bridge ソフトウェアは削除できません。P.64-3 の「ソフトウェア会議ブリッジの設定について」を参照してください。

始める前に

Cisco Unified Communications Manager では、メディア リソース グループなどの要素に関連付けられている可能性のあるデバイスを削除できます。コンファレンス デバイスに存在する可能性のある依存関係を検索するには、[会議ブリッジの設定 (Conference Bridge Configuration)] ウィンドウで、ドロップダウンリスト ボックスから [依存関係レコード] リンクを選択し、[移動] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、P.A-4 の「依存関係レコードへのアクセス」を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** P.64-2 の「[会議ブリッジの検索](#)」の手順を使用して、会議ブリッジを見つけます。
 - ステップ 2** 削除する会議ブリッジをクリックします。
 - ステップ 3** [選択項目の削除] をクリックします。

次の警告メッセージが表示されます。

「1 つ以上の会議ブリッジを完全に削除しようとしています。この操作を取り消すことはできません。続行しますか?」

- ステップ 4** [OK] をクリックして、コンファレンス デバイスを削除します。
-

追加情報

P.64-15 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [会議ブリッジの検索 \(P.64-2\)](#)
- [ソフトウェア会議ブリッジの設定について \(P.64-3\)](#)
- [ソフトウェア会議ブリッジの設定値 \(P.64-4\)](#)
- [ハードウェア コンファレンス デバイスの追加 \(P.64-5\)](#)
- [ハードウェア会議ブリッジの設定値 \(P.64-6\)](#)
- [Cisco IOS Conference Bridge デバイスの追加 \(P.64-7\)](#)
- [Cisco IOS Conference Bridge の設定値 \(P.64-8\)](#)
- [Cisco Video Conference Bridge デバイスの追加 \(P.64-9\)](#)
- [Cisco Video Conference Bridge の設定値 \(P.64-10\)](#)
- [Cisco Conference Bridge \(WS-SVC-CMM\) の追加 \(P.64-11\)](#)
- [Cisco Conference Bridge \(WS-SVC-CMM\) の設定値 \(P.64-12\)](#)
- [コンファレンス デバイスの更新 \(P.64-13\)](#)
- [コンファレンス デバイスの削除 \(P.64-14\)](#)
- [ミーティング番号 / パターンの設定 \(P.58-3\)](#)
- [ミーティング番号 / パターンの設定値 \(P.58-4\)](#)
- [ミーティング番号 / パターンの削除 \(P.58-5\)](#)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「会議ブリッジ」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified Communications Manager の管理機能における会議ブリッジのタイプ」

その他の情報

- 『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』の「Cisco Unified Communications Manager の管理ページでのセキュアな会議ブリッジの設定」
- *Cisco Unified Videoconferencing 3511 MCU and Cisco Unified Videoconferencing 3540 MCU Module Administrator Guide*
- *Cisco Unified Communications Manager Serviceability アドミニストレーション ガイド*

